

令和2年度 国立教育政策研究所
教育課程研究指定校事業研究協議会

岩手県 山田町立豊間根小学校

発表日：	令和3年2月2日(火)
都道府県名：	岩手県
学校名：	山田町立豊間根小学校
校種：	小学校
教科・科目等名：	外国語・外国語活動

実践発表

外国語で主体的に表現しようとする児童の育成
～児童が表現したいことに寄り添う指導を通して～

目 次

- 1 学校紹介
- 2 主題設定の理由
- 3 研究の内容
 - (1) CAN-DOリスト形式の学習到達目標の作成と活用
 - (2) 児童の思いに寄り添う指導の在り方
- 4 授業実践例
- 5 アンケート結果の考察
- 6 成果と課題

Ⅰ 学校紹介

本学区は、山田町の北西部に位置し、北は宮古市に隣接している山村地域である。東日本大震災後に、仮設住宅や復興住宅が建設されたり、新たな個人住宅も増えたりしている。

町内の隣接校と統合し、今年度4月、新たに24名の児童が加わった。2020年度の児童数は、8学級141名、職員数は17名の小規模校である。

学校教育に対する関心や期待が高い地域でもあり、PTA活動や教育振興運動・スポーツ少年団活動などが盛んで、保護者が協力的である。



2 主題設定の理由

本校児童の実態から

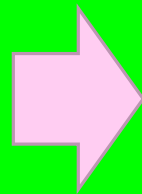
自分の伝えたいことを相手に伝えられる児童
友達の伝えたいことを聞くことができる児童

研究主題

外国語で主体的に表現しようとする児童の育成
～児童が表現したいことに寄り添う指導を通して～

新学習指導要領から

コミュニケーションを
重視する外国語活動、
外国語科での学び



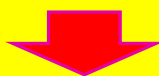
他教科等における
「主体的・対話的な
学び」へとつながる

3 研究の内容

目指す児童像に近づくための授業づくり

学習到達目標 (CAN-DOリスト形式) の作成と活用

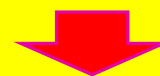
指導者と児童が、
単元の目標・学習内容を
共有し、活用するため。



日々の授業での活用を想定
・ 記載内容や形式
・ 具体的な活用場面や方法

児童の思いに 寄り添う指導

児童が、
主体的に参加する
授業を作るため。



必然性のある言語活動の設定
2つの「よりそい」

研究の内容（Ⅰ）

学習到達目標（CAN-DOリスト形式）の作成と活用

作成の目的

指導者と児童が，単元の目標や学習内容について共通理解しながら活用し，学習に生かすため。

学習到達目標（CAN-DOリスト形式）作成のメリット

指導者・児童の双方が

- ・単元の学習内容，既習表現の確認ができる。
- ・各学年で，どこまで目指したらよいか「学年末の姿」が分かる。
- ・2学年分の系統性や，スパイラル形式の学習を見通すことができる。

また本校では，学習到達目標（CAN-DOリスト形式）を

- ①児童と共有するCAN-DOリスト
- ②CAN-DOリストを含む年間指導計画
の2種類を作成した。

5・6年の学習到達目標（CAN-DOリスト形式）作成の手順

- ☑ 学習指導要領に示されている目標と、各単元の題材、言語材料等を照らし合わせる。
- ☑ 児童の実態を踏まえて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識しながら単元のゴールとなる言語活動を決める。その際、以下についても考えながら単元のゴールとなる言語活動を決める。

* 「話すこと[やり取り]」・「話すこと[発表]」のどちらの領域をねらうか。
* 決めた領域目標の項目（アイウ）のどれをねらうか。

* 「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の各領域別の目標の項目（アイウ）のどれをねらうか。

* 他教科等の学習内容との関連を確認する。

- ☑ 領域別の目標の全体を見て、年間のバランスや、学期ごとのバランスを調整する。
- ☑ 年間指導計画を基に、CAN-DOリストに各単元の目標と単元名を入れる。
- ☑ 最終調整をする。

その後も、必要に応じて調整・修正を行っている。

児童と共有するCAN-DOリスト

山田町立豊間根小学校 外国語科 CAN-DOリスト

名前 ()

聞くこと



5 年生	6 年生
♪自己紹介や誕生日について聞いて、簡単な語句を聞き取ることができる。	♪なりたい職業やその理由について聞いて、簡単な語句を聞き取ることができる。
Lesson 1 Nice to meet you.	Lesson 10 I have a dream.
Lesson 2 When is your birthday?	
♪できることやできないこと、クイズの指示、宝物の種類やありかについてくわしく聞き取ることができる。	♪友だちの自己紹介、一日の生活の時刻、夏休みの思い出好きなスポーツなどの具体的な情報を聞き取ることができる。
Lesson 4 Can you do this?	Lesson 1 We are friends.
Project 1 パーティーを楽しもう	Lesson 2 What time do you get up?
Lesson 5 Where is your treasure?	Lesson 6 My Summer Vacation.
	Lesson 8 What sport do you like?
♪時間割やヒーロー、十二支、町しょうかい等の話のたいが理解できる。	♪友だちのツアープランや日本のおすすめ、物語やお話のたいが聞き取ることができる。
Lesson 3 What do you have on Mondays?	Lesson 3 Where do you want to go?
Lesson 6 My Hero	Project 1 世界で活躍する日本人を紹介しよう
Lesson 7 Happy New Year	Lesson 7 See the world.
Lesson 9 I love my town.	Lesson 9 My Favorite Memory.
	Project 2 感謝の気持ちを伝えよう

☆2学年分の学習を見通すことができる。

- ☞どんな学習が、いつ行われるかが分かることで、安心して学習できる。
- ☞児童自身で目標を決め、主体的に学習に取り組むことができる。

☆既習を振り返ることができる。

- ☞「前にもやったからできそう」という自信につながる。
- ☞「前に学習したことも使ってみよう」という気持ちになり、主体的に学習に取り組める。

CAN-DOリストを含む年間指導計画

「記録に残す評価」を太枠で示している。
太枠以外の部分は、「記録には残さないが、
目標に向けて指導は行う領域」としている。

第6学年 年間指導計画（本校学習到達目標と各単元との関連付け）

年間指導計画（開隆堂 Junior Sunshine）							学習到達目標（CAN-DOリスト形式）				
学期	6年	単元名	題材	主な言語材料	他教科との関連	Let's Try(GOAL)	聞くこと	読むこと	話すこと(やり取り)	話すこと(発表)	書くこと
1学期	Lesson1	We are friends. (2時間)	クラスの輪を広げよう。	復習		友だちとの共通点を友だちが自己紹介している内容を聞き取ることができる。(イ)			友だちや新担任と物怖じしないで、あいさつをしたり、応じたりすることができる。(ア)		
	Lesson2	What time do you get up? (6時間)	自分の一日をしようか。いしょう。	What time do you~?	社	自分の一日を英語で発表しよう。	一日の生活の時刻を聞き取ることができる。(イ)	何時に何をするのかの尋ね方の表現の意味が分かるようにする。(エ)		基本的な表現を用いて、友達に一日の生活の時刻を話すことができる。(ア)	
	Lesson3	Where do you want to go? (6時間)	ツアープランナーになろう。	Where do you want to go? Why?	社	ツアープランナーになって、おすすめのツアープランを英語で紹介しよう。	友だちのツアープランの概要を捉えることができる。(ウ)		友だちや先生方にツアープランナーになって、おすすめのプランを紹介したり、質問したいことを質問したり答えたりすることができる。(ウ)		国名を書き写すことができる。(ア)
	Lesson4	Welcome to Japan. (6時間)	日本のことをしようか。いしょう。	Welcome to ~. We have ~. Please ~.	社	身近な人に、自分たちの住む地域のことを英語で紹介しよう。		日本の有名な場所や食べ物を表す語句の意味が分かるようにする。(イ)		身近な人に日本のよいところを相手に分かりやすいように整理して話すことができる。(ウ)	
	Lesson5	I want to see the Milky Way. (4時間)	夏休みの計画を立てよう。	I want to ~.	理図	夏休みにしたいことを家の人に英語で伝えよう。		夏休みにしたいことを表す語句の意味が分かるようにする。(イ)			書き方のルールに気を付けながら、文を書き写すことができる。(ア)

☆どの単元で、どの領域の評価を行うのかが分かりやすい。

☞評価に偏りが出ない。

☞評価領域を理解した上で、単元計画を立てることができる。

☆既習表現を取り入れながら学習を進められる。

☞各単元で取り扱う言語材料が記載されているので、既習表現を取り入れた学習計画を立てることができ、知識の定着にもつながる。

指導と評価の一体化

言語活動を通して

目標

- ・ 学習指導要領で示されている5領域（内容のまとまり）の目標
- ・ それぞれの単元において，どの領域の資質・能力を意識して育成するのかCAN-DOリストに明記

※ 記録に残す評価場面と方法の確認

指導

- ・ 単元で設定した目標を達成するための言語活動の工夫
- ・ 指導中における形成的評価のポイントや目標に向けての指導の焦点化

評価

- ・ 目標・指導にそった記録に残す評価
- ・ 学習改善のための児童へのフィードバック
- ・ 次の指導へ向けての改善事項の確認

指導と評価計画 (例) 6年生

単元名	Lesson 8 “What sport do you like?” 人気のスポーツを調べよう。(開隆堂Junior Sunshine 6)
CAN-DO	【聞くこと】友達のとしてみたいスポーツや好きなスポーツ選手等を聞き取ることができる。(イ) 【話すこと(や)】好きなスポーツや選手, としてみたいスポーツについて, 伝え合うことができる。(イ)
単元の目標	オーストラリアの子供たちに自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために, 英語で好きなスポーツや好きなオリンピック選手, オリンピックで見てみたいスポーツ等について聞き取ったり, 伝え合ったりすることができる。 記録に残す評価は, 【話すこと(や)】

単元の目標に向けて		
時	単位時間の目標	評価
1・2	スポーツ名を聞き取ったり, 自分の好きなスポーツを友達と伝え合ったりすることができる。	記録に残す評価は行わないが, 目標に向けての指導を行う。
3	好きなスポーツ選手(オリンピック選手)を尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しみ, 自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。	
4	オリンピックで見たいスポーツを尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しみ, 自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。	
5	学級のランキングを作るために, 好きなスポーツや選手, 見たいスポーツについて質問したり答えたりすることができる。	行動観察・ビデオ・振り返りファイル
6	オーストラリアの子供たちに自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために, オーストラリアの子供たちと好きなスポーツや選手, 見たいオリンピックのスポーツについて伝え合うことができる。	行動観察・ビデオ・振り返りファイル

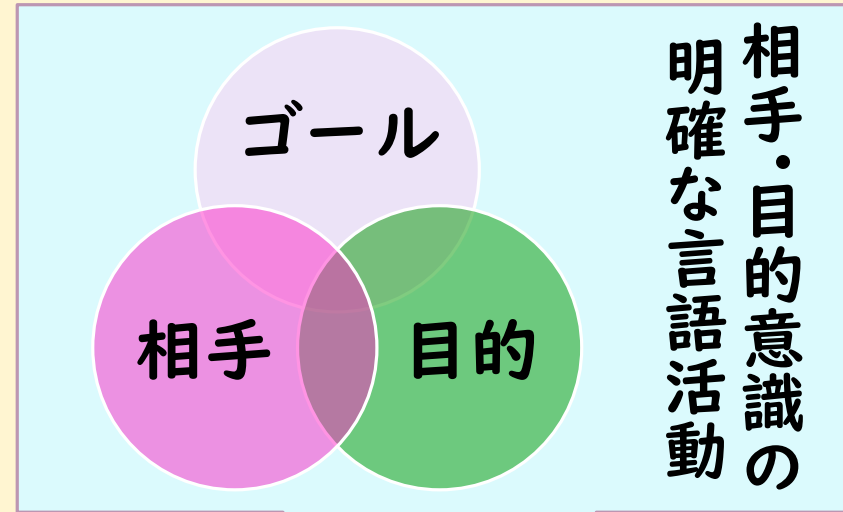
聞くこと
話すこと(や)

研究の内容（２） 児童の思いに寄り添う指導

CAN-DOリストを
活用した
授業づくりの構想

バックワード・デザイン
を意識した授業構想

意欲を高め
気持ちを引き出す
「よりそいスタート」



CAN-DOリストを活用する児童

ゴールの姿のイメージ

学習内容の見通し

主体的な学習参加

既習表現の振り返り

気持ちに寄り添う
「よりそい
ブラッシュアップ」

外国語活動実践例（３年生）

単元名 “How many?” ～数えて遊ぼう～

Final goal 「６年生とHow many ゲームをしよう」

３年生にとって英語の大先輩である「６年生」を相手に How many ゲームをすることを目的とすることで、６年生との活動までに、“How many ～”をたくさん使って積極的に活動する姿が見られた。最後の６年生との活動を行う際には、“How many ～”を使って多くの６年生と自信をもってやり取りをすることができた。



「よりそいスタート」

やり取りのモデルを見せている場面。これから行うHow many ゲームを実際に行って見せ、やり方を共有する。「自分もできそうだ」という気持ちをもたせた。

「よりそいブラッシュアップ」

中間振り返りの様子。やり取りの中で、相手に伝わるような工夫ができている児童などを紹介し、全体で共有することで、よりよいやり取りができるようにした。



外国語活動実践例（４年生）

単元名 “What time is it?” ～自分の好きな時間を伝えよう～
Final goal 「家の人に夏休みの生活時間と，好きな時間を伝えよう」

夏休みの生活時間について，実行の決意を込めながら家の人に伝えることで，これまでの外国語活動の学習の成果を見てもらおうという目標をたて，学習を進めた。相手が「家の人」とはっきりしていることと，目的の一つが「学習の成果を見せる」としていることもあり，何度も言い方を友達と確認し合う様子が見られた。



「よりそいスタート」

授業のはじめに Final goal（言語活動のゴール）の再確認を行った。誰に，何の目的でこの活動を行うのかを常に確認することで，主体的に学習に取り組めるようにする。

「よりそいブラッシュアップ」

起床，就寝などの生活時間が分かるイラストをワークシートにして配布した。絵を示すことで相手にも伝わりやすく，伝える側も不完全な英語でも大丈夫という気持ちで活動できるようにした。



外国語科実践例（5年生）

単元名 “Can you do this?” ～プロフィールカードを作ろう～

Final goal 「プロフィールカードを作ろう。」

学校が統合して約2か月の時期に実施した。今よりもより深く友達のことを知り、仲を深めることを目的として、自分のできることや、得意なことを紹介するというゴールを設定した。活動後は「友達のこと新しい発見もあった」という児童からの振り返りがあった。やり取りを重ねることで児童がより主体的に活動することができていた。



「よりそいスタート」

「できること」を伝え合うための導入として、「can」の使い方を学習する場面でけん玉を活用した。担任がけん玉の技ができるかできないかを「can」「can't」で児童に問うなど、楽しみながら学習を進められるようにした。

「よりそいブラッシュアップ」

発表場面で自分の伝えたいことを、より分かりやすく相手に伝えるために写真等を相手に見せながら活動できるようなカードを活用し、「相手に伝える」ことを意識した活動につなげた。



外国語科実践例（6年生）

単元名 “Welcome to Japan.” ～日本のことをしょうかいしよう～
Final goal 「オーストラリアの方に自分たちの住む地域のことを
しょうかいしよう」

教科書の単元と関連させて、日本のことを外国の方に伝えるという言語活動を設定した。同じ年頃のオーストラリアの子どもをやり取りの相手としたこともあり、本校の6年生も「何を伝えるとよいか」「こんなことを伝えたい」などと、積極的に活動に取り組む児童が多くみられた。

「よりそいスタート」

今日の学習でどんなことをするのかのイメージをもたせることで、「できそうだ」「やってみよう」という気持ちをもたせられるようにした。



「よりそいブラッシュアップ」

「話したいけれど何と言ったらよいか分からない」事柄を、学級全体で共有し、どのように言ったらよいか考えた。「既習を使えばどうにかできそうだ」と気が付き「分からなくても話してみよう」という自信をもってやり取りができるようになった。



Project単元の活動

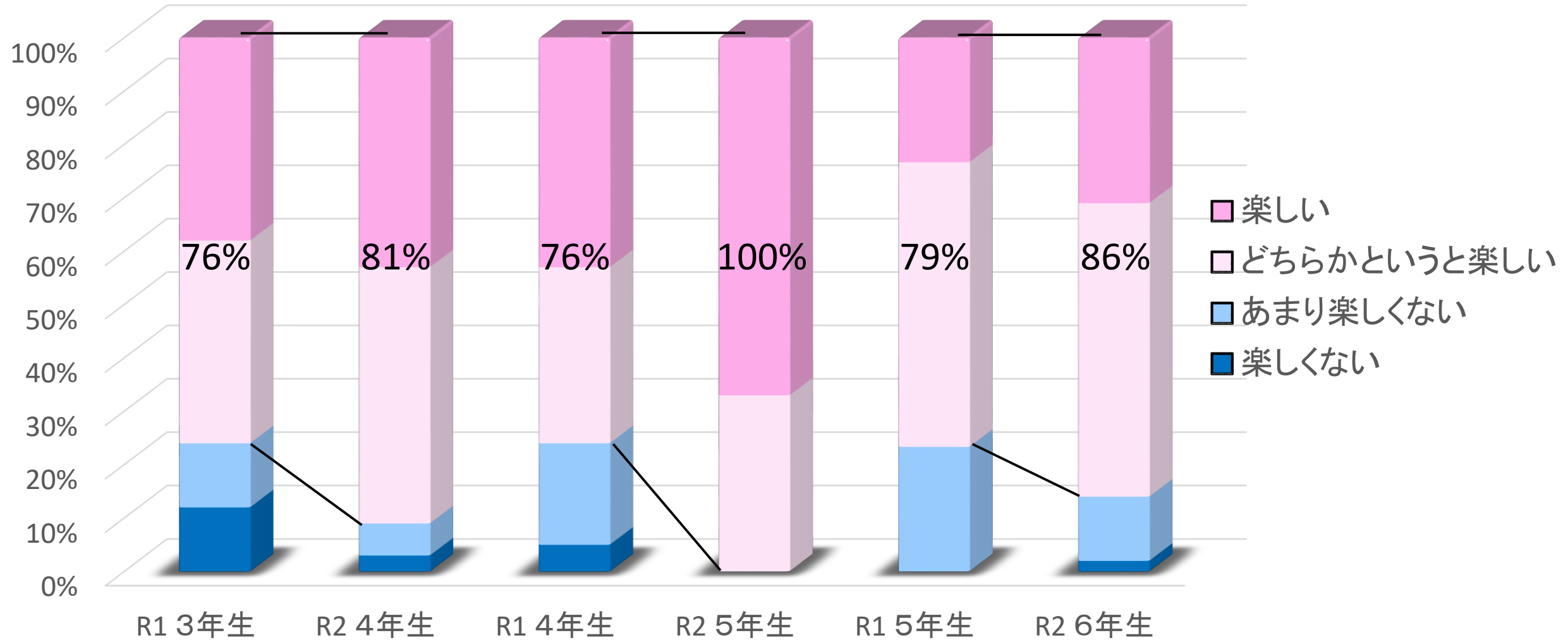
教科書のProjectの単元と合わせて、外国の方と実際に交流する機会を設けた。5年生は「Englishパーティー」と題し、シルエットクイズや3ヒントクイズなどの活動を、6年生は、世界で活躍する日本人のことを外国の方に伝えるための発表会を行った。準備の段階から、相手を意識して内容を考える児童の姿が見られたことや、実際の活動の中でも、外国の方からの質問にどうにかして答えようとする姿も多く見られた。



アンケート結果から①（同一集団の変容）

R1は令和元年11月調査
R2は実施した調査3回の平均

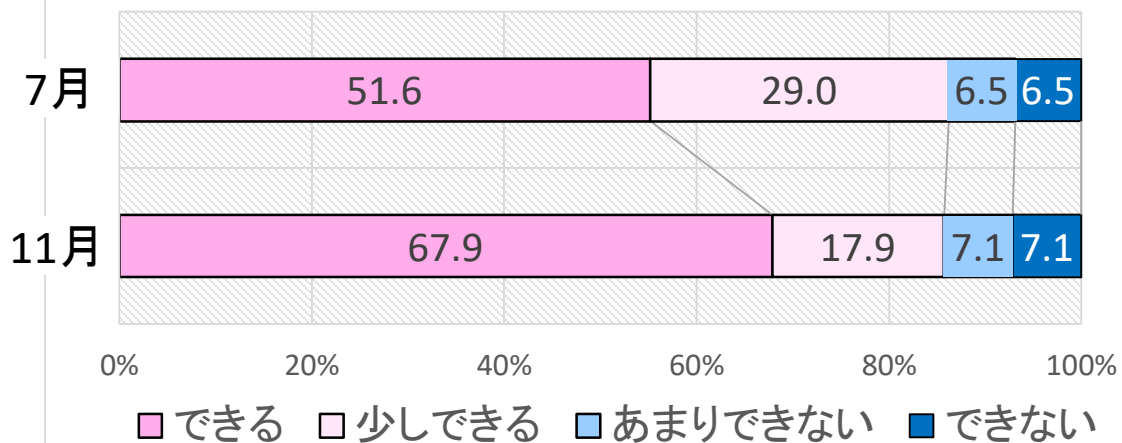
英語の学習は楽しいですか。



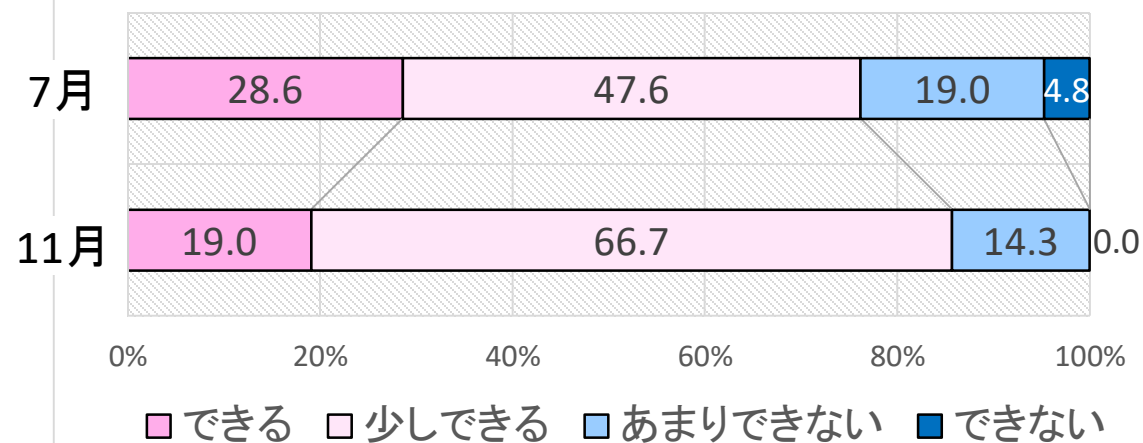
アンケート結果から②

英語を使って、やり取りすることができますか。

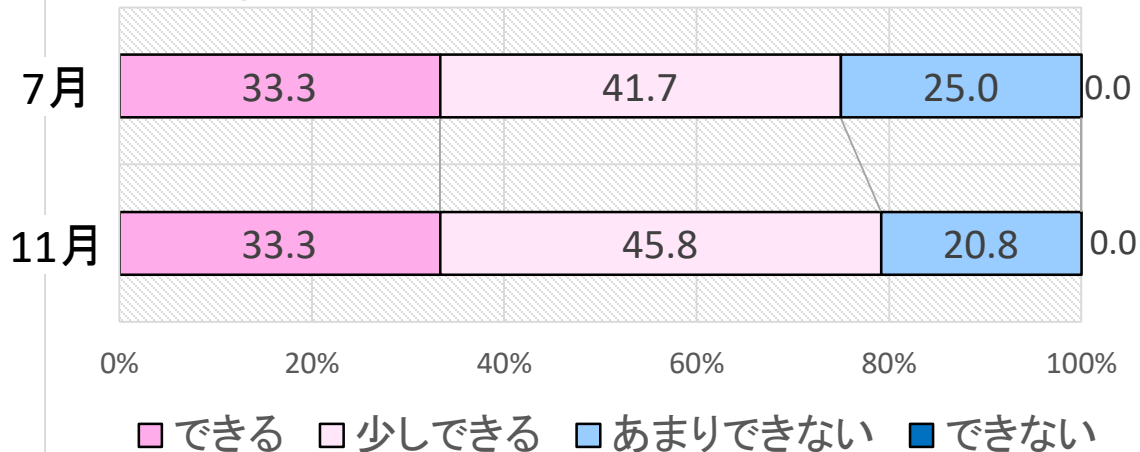
3年生



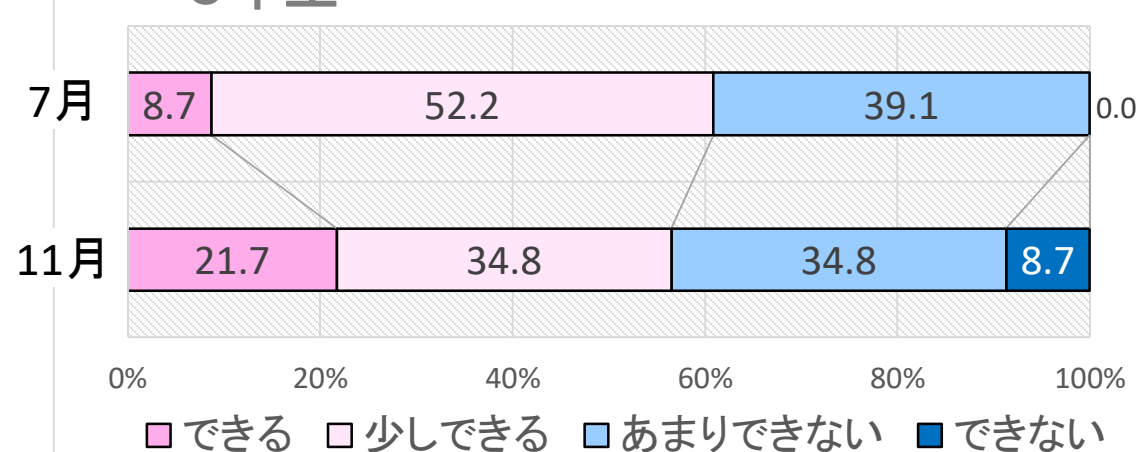
4年生



5年生



6年生



アンケート結果の考察

- 英語の学習が「楽しい」「どちらかというと楽しい」と回答している児童が、どの学年においても増加している。
- 具体的には、ランキング作りや、ピザカード作り、外国の方との会話等の言語活動が楽しかったと感じている。

相手意識・目的意識のある言語活動を設定し、さらにそれが児童の実態に合ったものであれば、児童の意欲は高まる。

一方で、「楽しくない」「あまり楽しくない」と答える児童もあり、学習の難しさを感じ始めていることが理由の一つと考えられる。引き続き、児童が表現したいと思える活動を模索していく。

- 3, 4年生は、友達と英語を使ってやり取りすることが「できる」「少しできる」と回答した児童が80%を超えている。
- 6年生は、友達と英語を使ってやり取りすることが「できる」と回答した児童が増えた一方で、否定的回答をする児童が増えた。

「できる」「少しできる」と答えた児童については、話せる英文が増えたことで、自分が話す英語が通じたことの嬉しさや楽しさを実感できたのではないかと考えられる。

6年生で「あまりできない」と答えた児童は、その理由として「やり取りに使う英文が長くて難しい」「英文が覚えられない」ということをあげていた。学習が進むにつれて、言語材料が増えたことや言語材料の表現が長くなったことで「あまりできない」と自己評価したと考えられる。「英語が身に付くまでには時間がかかる」、「間違えながら身に付けていく」ということを教師・児童で共有し、児童の学びに寄り添いながら粘り強く指導改善を続けていく。

また、6年生においては、2回目の調査で「できない」と回答する児童が出現した。教師の評価としては「おおむね満足できる」状況の児童であった。CAN-DOリストを活用しながら目指す姿や達成状況の確認をするとともに、学習改善のためのフィードバックを充実させていく必要がある。

6 成果と課題

成果

- 学習到達目標（CAN-DOリスト形式）を活用することで、どの領域の資質・能力を育成するのかを指導者が理解し、学習を進めることができた。
- 学習到達目標（CAN-DOリスト形式）を活用することで、指導の振り返りがしやすくなり、単元の指導、各学期の指導、年間の指導を振り返ることができた。また、その振り返りを次単元、次学期、次年度の指導へ生かすことができた。学習到達目標（CAN-DOリスト形式）が、授業の計画だけでなく、指導の振り返りにも生かすことができ、PDCAサイクルによる指導改善に有効であることが分かった。
- 「相手意識」「目的意識」のある活動を設定することで、外国語活動、外国語科への児童の主体性を高めることができた。「相手意識」「目的意識」のある活動の設定には、学習到達目標（CAN-DOリスト形式）を活用することと、児童実態把握、児童の思いへの「よりそい」が重要であることも分かった。

課題

- △ 言語活動の内容を見直す必要がある。（毎年できる活動もあれば、オリンピックと関連させた活動など、その年度特有の活動もあるため。）
- △ 話すこと[やり取り]の評価に課題がある。（一人一人を時間内にみとることが難しい場面が多かった。話すこと[やり取り]の評価のため、全員をビデオで撮影することも難しい。授業の中でどのように見取っていくか今後も検討が必要。）

Thank you for
your attention.

